

支え、支えられ、はじかれて (放射能物質輸出大国?)

援助大国(世界第3位) = 日本 = 被援助国(世界第2位)

世の中の結びつき、影響の連鎖が、危機の中で見えてきています

震災で、改めて確認できたことは、世の中、いろんな所でつながっているということです。

日本の工場が止まると日本だけでなく、世界あちこちの生産に影響が出る。これまでの日本が行った海外支援のお返しで、海外からの援助申し出も例を見ない規模に。記憶がおぼろげですが、タバコも5月には品薄になりそうとか。

震災津波被害には、同情し、支援する一方で、過剰な放射性物質に対する忌避反応も。国内では、福島から避難してきた人が旅館での宿泊を断られたり、福建省モアイでは、船が放射線量の異常を指摘されて荷揚げできず、日本に引き返したりしています。

福島原発は、放射能汚染物質の垂れ流し状態が続いています。海はいくら広いとはいえ、世界に迷惑をかけることに。作業に従事される人の安全第一ですが、何とか踏ん張ってもらいたいと、祈るばかり。

野党自民党は、原発問題で、政府を迫及しています。元はといえば、自民党のまいた種で、その反省を棚上げに、お気楽な無責任と腹立たしい限り。慌ただしい中ですが、生活保護活用を！

原発視察「状況把握のため」＝最大限の緊張で対処

菅首相 2011年3月29日(火) 10:03

菅直人首相は29日午前の参院予算委員会で、東日本大震災発生翌日に福島第1原発を視察したことについて「現地の状況を把握することが重要と考えた。視察に行ったことで(初動対応が)遅延したとの指摘はまったく当たっていない」と述べ、問題はないとの認識を示した。自民党の磯崎陽輔氏への答弁。

首相は「その後の経緯を考えると、現地の責任者に短時間だが会って直接話を聞いて、人物を見たことが極めて有効だった」と強調。磯崎氏は、首相の視察が放射性物質を含む気体を原子炉から抜く「ベント」の遅れにつながったと指摘したが、首相は「(視察前の)12日午前1時30分にベントをすべきという姿勢を明確にし、東京電力に伝えていた」と反論した。

原発事故への対応については「予断を許さない状況が続いている。最大限の緊張感を持ち、取り組んでいく」と表明した。

首相の国会答弁は震災発生後初めて。「時事通信社」

世界からニッポン支援 被災地とのニーズ調整課題 2011年3月29日7時19分 アサヒ・コム

東日本大震災の被災者を助けようと、世界でニッポン支援の動きが広がっている。物資を日本に送る

ほか、自国内で募金集めのチャリティーコンサートや追悼式典を開くなど、民間の取り組みも目立つ。

海外からの支援の申し出と被災地のニーズをどのように調整するかが課題となっている。

外務省によると、世界の134カ国・地域、39国際機関から支援の申し出があり、28日までに2

4カ国・地域から物資が届いた。中国、韓国などアジア諸国や欧米諸国を中心に、毛布が計17万枚以

上届いたほか、大量の水や食料品が送られている。

課題となるのが、被災地の現状、ニーズと各国支援の調整だ。支援の申し出は震災直後から相次い

だものの、当初は保管場所や輸送手段の確保に手間取り、受け取りまで時間がかかった場合もあった。

伴野豊外務副大臣は28日の会見で「今後の課題があるとすれば、被災者に負担をかけない中で、時

間を置くことなく手当てをすることだ」と話し、調整の迅速化に努める考えを示した。

今は、首相官邸に17日に設置された被災者生活支援特別対策本部が、被災地と連絡を取りながら必

要な物資の一覧表を作成し、外務省が各国との調整を担う。支援物資が倉庫に山積みになる事態を避け

るため、被災地の自治体が必要としている物を確認してから、外国に物資を送ってもらうようにした。

これまでは毛布や保存食といった緊急支援物資が多かったが、「徐々に復興の段階に入り、外国に求め

る支援物資も変わってくる」（同省関係者）という。

支援は先進国からだけでなく、「途上国からの支援も多いのが今回の特徴」（外務省幹部）だ。アフ

ガニスタンが2千万円、ガボンが8千万円など寄付が相次ぎ、モンゴルは国家公務員全員が給与1日分

を寄付することを決めた。同省では「自分の国が被災した時の日本の支援を覚えていて、感謝の気持ち

を示す国も多い」とみる。

国連の28日現在の集計によると、諸外国の政府や企業・団体からの支援物資や資金は225億円相

当にのぼる。日本は今年の人道支援分野の拠出が世界3位という「援助大国」だが、震災後、支援を受

ける「被援助国」としても急浮上し、28日にはスーダンに次ぐ2位になった。海外の支援物資や義援

金は未集計のものも多く、総額は今後、さらに増える見通しだ。

外務省によると、民間レベルでも様々な動きがある。中国では、日本大使館のミニブログに5千件近

くの支援の声が寄せられた。ウクライナやオランダの市民が千羽鶴を折るなど激励メッセージを寄せた

ほか、ブラジルではサッカー元日本代表監督のジーコ氏の呼びかけで、元Jリーガーらによるチャリテ

ィー試合を4月上旬に予定。募金活動も世界で広がり、台湾のテレビのチャリティー番組では数十億円

が集まった。（大島隆）